

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

肝細胞癌におけるウイルス性肝炎と代謝機能障害の合併についての検討

1. 対象となる患者さん

2007年1月1日～2023年12月31日の間に当院で肝切除術を施行された患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 土井 駿介

3. 研究の目的と意義

慢性ウイルス性肝炎は肝硬変及び肝細胞癌の主な原因として知られています。一方で、近年、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD）という用語が2023年に提案され、心血管代謝リスク因子（CMRFs）が肝繊維化や肝細胞癌の発生・予後に及ぼす影響が報告されてきています。慢性ウイルス性肝炎患者においてもメタボリックシンドロームの有病率は増加していますが、肝細胞癌術後患者における慢性ウイルス性肝炎と代謝機能障害の合併が予後に及ぼす影響は明らかではありません。今回、肝細胞癌術後患者における慢性ウイルス性肝炎と代謝機能障害合併が術後長期成績に及ぼす影響を検討します。ウイルス治療だけでなく、代謝機能障害の治療の重要性を明らかにし、肝細胞癌の予後改善を目指すことを目的とします。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、肝切除後におけるウイルス性肝炎と代謝機能障害の合併が予後に及ぼす影響を検討します。

5. 使用する情報

- ①臨床所見(年齢, 性別, 疾患, 既往症, 腫瘍径, 腫瘍個数, 腫瘍部位, 手術術式, 出血量, 手術時間, 組織型, 術式, 無再発生存期間, 全生存期間, 再発後生存期間)
- ②血液検査所見(肝機能検査:血清ビリルビン値, アルブミン値, AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)値, ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)値, PT(プロトロンビン)%値, ICG(インドシアニングリン)15分値, 腎機能検査: BUN(尿素窒素), Cre(クレアチニン), eGFR(推定糸球体濾過量), 腫瘍マーカー: AFP, PIVKA-II, 血小板数, リンパ球数)

## 6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

## 7. 研究期間

研究実施許可日～2028年12月31日

## 8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

## 9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 土井 駿介

住所: 奈良県橿原市四条町840番地

電話: 0744-22-3051

e-mail: raoyue8@naramed-u.ac.jp